

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第227集

岩村田遺跡群 西八日町遺跡Ⅶ

長野県佐久市岩村田西八日町遺跡Ⅶ発掘調査報告書







2014. 11

佐久市教育委員会

例 言

- 1 本書はミヤモリ不動産株式会社による宅地造成工事に伴う平成26年度岩村田遺跡群西八日町遺跡Ⅶの発掘調査報告書である。
- 2 事業主体者 ミヤモリ不動産株式会社 代表取締役 宮森伊八郎
- 3 調査主体者 佐久市中込3056 佐久市教育委員会 教育長 榎澤晴樹
- 4 遺跡名 岩村田遺跡群 西八日町遺跡Ⅶ (INCⅦH26)
- 5 調査担当者 上原 学
- 6 本書の編集・執筆は上原が行った。
- 7 本書及び出土遺物は、佐久市教育委員会の責任下に保管されている。

凡 例

- 1 遺構の略称は以下のとおりである。
H-竪穴住居址 D-土坑 M-溝状遺構 F-掘立柱建物址 P-ピット
- 2 スクリーントーンでの表示は以下のとおりである。
遺構
地山断面  掘方  焼土  粘土  遺物
黒色処理  須恵器断面 
- 3 挿図の縮尺は以下のとおりである。
遺構-竪穴住居址・土坑・溝状遺構・掘立柱建物址・ピット1/80
遺物-土器・石器1/4
- 4 遺物の写真番号と実測図番号は一致する。
- 5 遺構の標高は、水糸高を標高とした。
- 6 調査グリッドは4×4mである。
- 7 遺物表中の〔 〕は推定値、()は残存値を表す。

目 次

例言・凡例・目次	
第Ⅰ章 発掘調査の経緯	1
第1節 発掘調査の経緯	1
1 開発事業と保護協議	1
2 文化財保護手続き	1
3 調査体制	1
第2節 発掘作業の経過	1
1 発掘作業	1
2 整理作業	2
第Ⅱ章 遺跡の立地と環境	3
第1節 地理的環境	3
第2節 歴史的環境	3
第3節 発見された遺構と遺物	5
第4節 基本層序	5
第Ⅲ章 遺構と遺物	7
第1節 竪穴住居址 (H)	7
第2節 土坑 (D)	14
第3節 溝状遺構 (M)	15
第4節 掘立柱建物址 (F)	15
第5節 ピット (P)	16
写真図版	



西八日町遺跡Ⅶ (INCⅦH26) 調査区位置図 (1:50,000)

第I章 発掘調査の経緯

第1節 発掘調査の経緯

1. 開発事業と保護協議

岩村田遺跡群は佐久市岩村田に所在し、佐久地域特有の浅間山の麓から放射状に延びる浸食谷に含まれた南北方向に細長い台地上（田切り地形）に展開する弥生時代から中世に至る複合遺跡である。周辺は、以前から遺跡の密集する地域として周知されており、道路改良、区画整理事業、店舗建設等に伴う多くの発掘調査が実施されている。既発地域近隣では、南方の宅地造成工事に伴う西八日町遺跡及び共同住宅建設に伴う試掘調査によって弥生時代から平安時代の堅穴住居址50軒以上が、北方の道路改良及び区画整理事業に伴う西八日町遺跡Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ・Ⅶの調査では弥生時代から平安時代の堅穴住居址100軒以上が調査されている。

今回、ミヤモリ不動産株式会社が計画した宅地造成工事予定地域一帯が岩村田遺跡群に含まれることから進入道路部の試掘・確認調査を実施する運びとなった。平成26年4月に試掘・確認調査を実施した結果、堅穴住居址・土坑等の遺構が発見されたため、文化財保護協議を実施し、埋蔵文化財委託契約締結後、佐久市教育委員会が主体となり、進入道路部分の発掘調査を行った。なお、宅地面は盛土による工事であることから、今回の開発では調査対象外とした。

2. 文化財保護手続き

平成26年 2月 5日	土木工事のための埋蔵文化財発掘調査の届出（93条書類）
平成26年 2月 7日	周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について（通知）
平成26年 4月15日	試掘調査等終了報告（県・開発主体者）
平成26年 5月 7日	発掘調査終了報告
平成26年 5月 7日	埋蔵物発見届
平成26年 5月30日	文化財の認定及び県帰属について（通知）
平成26年 11月	出土遺物の譲与申請について（申請）

3. 調査体制

調査受託者

佐久市教育委員会	教育長	土屋盛夫（～平成26年5月）
		榎澤晴樹（平成26年5月～）

事務局

社会教育部長	山浦俊彦				
文化財課長	三石宗一				
文化財調査係長	比田井清美				
文化財調査係	小林真寿	富沢一明	上原学	神津一明	久保浩一郎
嘱託職員	林幸彦				
調査主任	森泉かよ子				
調査担当者	上原学				
調査員	赤羽根充江	浅沼勝男	岩崎重子	岩松茂年	小幡弘子
	羽毛日利明	比田井久美子	武者幸彦	横尾敬雄	渡辺学

第2節 発掘作業の経過

1. 発掘作業

(1) 名称と記号

事業予定地は、佐久市岩村田字西八日町に所在し、佐久市遺跡群紙分布図により、岩村田遺跡群に含まれる。周辺地域では道路改良・区画整理事業等に伴い、岩村田遺跡群西八日町遺跡Ⅰ～Ⅶの調査が実施されている。本事業に伴う発掘調査の遺跡名は調査時に「岩村田遺跡群 西八日町遺跡Ⅶ」と名付けた。その後、整理段階で西八日町遺跡Ⅶがすでに存在することが確認されたため、略号をこれまで使用された「INC」にⅦH26を付記し、「INCⅦH26」とした。「西八日町遺跡Ⅶ」の名称は無変更とした。

(2)遺構の名称と記号

H－堅穴住居址（地面を円形や方形に掘りくぼめ、柱穴・炉・カマド等を備えた住居と考えられるもの。佐久市では明らかに平地住居と考えられる遺構は発見されていない。）

F－掘立柱建物址（円形や方形に掘りくぼめ、柱を建てたと考えられるピットが規則正しく配列され、倉庫等の建物として使用されたと考えられるもの。）

D－土坑（地面を円形や方形に掘りくぼめたもので、陥穴・貯蔵穴・ゴミ穴等と考えられるもの。ピット・堅穴状遺構と区別するため、径または長辺が0.5m以上3m未満とした。）

M－溝状遺構（地面を溝状に掘り下げたもので、環濠・水路・道路・堀等と考えられるもの。）

P－ピット（地面を円形や方形に掘りくぼめ、柱状のものを建てたと思われるもの。土坑と区別するため、径が0.5m未満とした。）

(3)調査区の設定

調査区上に国家座標（世界測地系）に基づく40×40mの大グリッドを設定し、これを更に4×4mの小グリッドに分割した交点に木製の遺構測量用基準杭を打設した。（頂部に釘設置）

グリッド名は、北から南方向にひらがな（あ～お）、東から西方向に数字（1～10）を使用し、グリッド名1ーあグリッドのように設定した。

(4)調査の方法

調査は、試掘確認調査後の状態からトレンチ周辺等必要箇所を手掘りにより遺構確認面まで表土を除去し拡張した。その後、人員による遺構の検出作業を行い、開発事業者による基準杭の打設を行った。検出した遺構は命名後、調査を開始した。住居址の掘り下げは、通常4区画（Ⅰ～Ⅳ区）に分割し、対角のⅠ・Ⅲ区にL字状のサブトレンチを設定し、床面まで掘り下げ分層する。分層後Ⅰ・Ⅲ区を層ごとに床面まで掘り下げた後、残りのⅡ・Ⅳ区を掘り下げ先頭となるが、今回は調査区域外にまたがる遺構が主体で、調査範囲も狭小であることから、1区画又は2区画としてサブトレンチを掘り下げ、分層後に掘り下げを行った。床面検出後は、懸溝・ピット等を掘り下げた。写真撮影、平面図作成を実施した後、住居址掘方の写真撮影及び図面の追加作成を行った。カマドが設置されている住居址は、住居址掘方掘り下げ前にカマド解体調査を行い、同時に断面図等の図面を作成した。遺物は、区画ごとに取り上げた。遺跡・遺構の全体写真は各遺構の調査が終了した時点で撮影した。遺構の平面図作成は調査区内に設定した基準杭を利用した遺り方測量により、調査担当・調査員が実施し、縮尺は1:20を基本とした。写真撮影は担当者が行い、デジタル一眼レフカメラと35mmフィルム一眼カメラによるカラーリバーサルで行った。

(5)日誌

平成26年4月14日 埋蔵文化財試掘調査

4月14日～ 文化財保護協議 進入道路部分にかかる遺構の発掘調査を実施し、宅地面については埋土による造成であることから調査対象外とした。

4月21日 埋蔵文化財委託契約

4月21～22日 調査準備・機材搬入

4月23日 調査員による発掘調査開始。遺構検出作業・遺構掘り下げ作業。

4月24日～5月2日 調査区拡張・遺構掘り下げ・基準杭設定・図面作成・写真撮影・機材撤収・機材整理。

2. 整理作業

(1)整理の内容

整理作業は一部現場作業中及び終了後に図面整理・図面修正、写真整理、遺構・遺物図版作成、遺物洗浄、遺物注記、遺物接合・補修修復、遺物実測、遺物写真撮影、報告書作成、原稿執筆、印刷製本、遺物・図面収納作業を実施した。

遺物実測は調査員が1/1で鉛筆実測したものを、1/2でトレースし、報告書掲載時の縮尺を基本的に1/4とした。

遺構図版は、1/40で鉛筆による仮割付を行った後、製図ペンにてトレースを実施し、報告書掲載時の縮尺を基本的に1/80とした。

報告書の原稿はマイクロソフト社製「ワード」、表原稿はマイクロソフト社製「エクセル」を使用し、遺構・遺物写真のデータ形式はニコン「NEFデータ」を使用した。

(2)資料の収納

作業が終了した図面は、原図・印刷用図版一式をファイルに収納、写真はアルバムに収納したネガ・データと共に文化財課耐火収納庫に保管した。遺物は、報告書掲載図版と照らし合わせ、遺構ごとにコンテナへ入れた後、報告書使用遺物と未使用遺物を分けて文化財課遺物保管施設に収納した。

(3)日誌

平成26年5月8日～11月14日

図面整理・図面修正、写真整理、遺構・遺物図版作成、遺物洗浄、遺物注記、遺物接合・補修修復、遺物実測作業、遺物写真撮影、割付本作成、原稿執筆、印刷製本、遺物・図面収納作業実施。

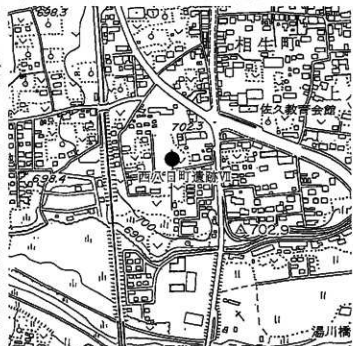
11月7日 佐久市埋蔵文化財調査報告書第227集 岩村田遺跡群 西八日町遺跡VII刊行。

第二章 遺跡の立地と環境

第1節 地理的環境

佐久地域は、周辺を山地台地に囲まれた盆地状を呈し、一般に佐久平と呼ばれ、北には雄大な浅間山、南には蓼科山が存在する。東には群馬県との境を成す北関東山脈の北端が延び、西は御牧原・八重原といった小高い台地が広がり、蓼科山の裾野と接している。佐久地域における水系の代表は、南方の川上谷に源を発す千曲川であり、北流しながら支流を集めつつ水量を増して佐久平に入る。その後野沢付近から流れを北西に変え、蓼科山麓の支流を集めた片貝川、浅間の麓に源を発す湯川、関東山地からの支流を集めた滑津川といった河川と合流し、蛇行しながら上田、長野方面に貫流する。この山地に囲まれ、水にも恵まれた盆地状の佐久平は、地質学的に見ると大きく二分することができ、志賀川と滑津川が合流し、さらに千曲川と川筋を一つにする東西線を境として、河川の北側段丘上と南側では20m前後の比高差が認められる。この北部地域は北方の浅間山麓部の緩やかな台地で、浅間の噴出物である火砕流軽石流と降下火山灰が厚く堆積している。この堆積物は雨水による浸食に弱く長い年月の間に深く削り取られ、浅間の麓から放射状に幾筋もの浸食谷（田切り地形）を形成している。

これに対し南部地域は千曲川の氾濫原沖積地と滑津川の谷口扇状地等で、河床礫層と沖積粘土層地帯が主となり地下水位も高く、地盤の安定した土地である。このため南部一帯は広く水田として利用されていた。今回調査を実施した、西八日町遺跡VIIは岩村田市街地の南方、佐久市北部地域の浸食谷（田切り地形）に挟まれた南北方向に細長い台地南端付近、標高702m内外に位置する。



岩村田遺跡群西八日町遺跡VII(ENCVII126)位置図(1:7,000)

第2節 歴史的環境

縄文時代—北東方向の湯川右岸に所在する上ノ城遺跡(35)で落とし穴、中期の土器片、石鏃・石鏃・石斧、下信濃石遺跡(34)で早期の押型土器片、湯川左岸の寺知遺跡から草創期の爪形土器が出土している。付近ではまとまった集落的な遺跡は確認されていない状況である。

弥生時代—前期は湯川右岸の下信濃石遺跡(34)でまとまった資料が出土している。土器底部2点の放射性炭素年代測定では $2,400 \pm 30$ 、 $2,440 \pm 30$ という年代が得られている。また、湯川対岸の左岸に所在する伴田遺跡(18)では調部から口縁にかけての壺が出土している。中期後半から遺跡の数が増加する。代表的な遺跡として西八日町遺跡、東一本柳遺跡、北一本柳遺跡、西一本柳遺跡、北西の久保遺跡がある。湯川右岸の台地端部に大規模な集落が展開していたと考えられる。

古墳時代～古墳時代前期は弥生時代中期後半から急激に遺跡数が増加したにもかかわらず、佐久市内における遺跡の数が激減する。集落の規模も小規模なものが多く、本遺跡周辺では湯川対岸である左岸の今井西原遺跡(地図外)で4世紀の集落が認められる。遺跡数が増加するのはカマドが住居内に導入され始める中期後半(5世紀後半)前後になってからである。代表的な遺跡に西八日町遺跡、東一本柳遺跡、北一本柳遺跡、西一本柳遺跡、北西の久保遺跡、上ノ段遺跡がある。また、5～7世紀の古墳も点在しており、西方の東一本柳古墳(32)では金銅製の馬具が出土している。さらに、西方の墳丘を消失した6世紀代の北西の久保7号墳(23)周溝内からは人物(武人・巫女)、動物(馬・鹿・鳥)、器類(厨・鞆)等の墳葬が多数出土し、貴重な資料となっている。

奈良・平安時代～古墳時代後半の遺跡が所在する地域とはほぼ同じ遺跡に所在することが多く、遺跡数も多い。湯川対岸の仲玉遺跡(18)から寺院跡を思わせる奈良時代の八花鏡(花弁双縁八花鏡)、寺の文字が土器表面に墨で書かれた墨書土器が出土している。

中世・近世～中世には北方の湯川右岸縁辺の断崖に沿って大井氏の城である大井城(6)(北から石並城・王城・黒岩城)が築城され岩が田一帯は城下町として栄えていた。大井城(黒岩城)の発掘調査からはすり鉢・石臼などの遺物が多数出土している。しかし、戦国時代の文明16年(1484)に村上氏の攻撃を受けると、幾度となく戦乱に巻き込まれ、衰退の途をたどったとされている。

近世中期以降になると岩村川地域は城下町であると共に宿場町としてふたたび栄えていった。江戸時代末期にはそれまでの陣屋が手狭となり、湯川左岸に藤ヶ城(33)が築城されたが、明治維新によって完成に至らなかった。本丸遺址は岩村田小学校となっており、土塁・石垣等一部が残存している。

No.	遺 跡 名	所 在 地	鷹 取	古 屋	中 1 班	備 考
1	西八日町遺跡Ⅲ	岩村町西八日町				今回調査
2	西八日町遺跡Ⅰ	岩村町西八日町	○			S58年度調査
3	西八日町遺跡Ⅳ	岩村町西八日町	○	○	○	F19～21年度調査 佐久市第72集
4	上の段遺跡	岩村町上ノ段				S68年度調査 「うえのじょう」
5	観音堂遺跡	岩村町観音堂				F9年度調査 佐久市第70集
6	大井城跡	岩村町	○	○	○	S59～61年度調査 「大井城跡」
7	内西原遺跡Ⅰ	岩村町内西原	○	○	○	F元年度調査
8	内西原遺跡Ⅱ	岩村町内西原	○	○	○	F12年度調査
9	柳並遺跡	岩村町柳並	○	○	○	F10年度調査 佐久市第85集
10	西一本柳遺跡Ⅴ	岩村町一本柳	○	○	○	F18～19年度調査 佐久市第75集
11	北一本柳遺跡Ⅱ	岩村町北一本柳	○	○	○	F18～21年度調査 佐久市第75集
12	東大門先遺跡Ⅱ	岩村町東大門先	○	○	○	F18～22年度調査 佐久市第76集
13	西八日町遺跡Ⅱ	岩村町西八日町	○	○	○	F19～22年度調査 佐久市第75集
14	西八日町遺跡Ⅰ	岩村町	○	○	○	F18～20年度調査 佐久市第75集
15	東一本柳遺跡Ⅰ	岩村町東一本柳	○	○	○	S68年度調査
16	北一本柳遺跡Ⅰ	岩村町北一本柳	○	○	○	S66・47年度調査 第一の文化財4
17	北一本柳遺跡Ⅱ	岩村町	○	○	○	F15年度調査 年報14
18	西一本柳遺跡Ⅰ	岩村町一本柳	○	○	○	H3・4年度調査 佐久市第34集
19	中西ノ久保遺跡Ⅰ	岩村町中西ノ久保	○	○	○	F34年度調査 佐久市第37集
20	西一本柳遺跡Ⅱ	岩村町一本柳	○	○	○	F4年度調査 佐久市第37集
21	西一本柳遺跡Ⅲ	岩村町一本柳	○	○	○	F7・8年度調査 佐久市第73集
22	寺窪遺跡Ⅰ	久保久保寺	○	○	○	F16年度調査 佐久市第40集
23	寺窪遺跡Ⅱ	久保久保寺	○	○	○	F7年度調査 佐久市第66集
24	岩田遺跡	久保久保寺	○	○	○	F7年度調査 佐久市第66集
25	中西ノ久保遺跡Ⅱ	岩村町中西ノ久保	○	○	○	F17年度調査 佐久市第66集
26	約田遺跡Ⅱ	久保久保寺	○	○	○	F18年度調査 佐久市141集
27	松の木沢Ⅰ・Ⅱ	岩村町松の木	○	○	○	F18・6年度調査 佐久市第91集
28	中長尾遺跡Ⅰ・Ⅱ	岩村町中長尾	○	○	○	F18・20年度調査 佐久市第91集
29	西一本柳遺跡Ⅳ	岩村町下藤田	○	○	○	F18・9年度調査 佐久市第91集
30	中西ノ久保遺跡Ⅲ	岩村町中西ノ久保	○	○	○	F19年度調査
31	中西ノ久保遺跡Ⅳ	岩村町中西ノ久保	○	○	○	S57～66年度調査 「北西の久保」
32	西一本柳遺跡Ⅵ	岩村町一本柳	○	○	○	F10年度調査 年報8
33	西一本柳遺跡Ⅶ	岩村町一本柳	○	○	○	F14年度調査 佐久市113集
34	西一本柳遺跡Ⅷ	岩村町一本柳	○	○	○	F15年度調査 年報14
35	西一本柳遺跡Ⅷ	岩村町一本柳	○	○	○	F15年度調査 年報14
36	西一本柳遺跡Ⅷ	岩村町一本柳	○	○	○	F15年度調査 年報14
37	西一本柳遺跡Ⅷ	岩村町一本柳	○	○	○	F15年度調査 年報14
38	西一本柳遺跡Ⅷ	岩村町一本柳	○	○	○	F15年度調査 年報14
39	西一本柳遺跡Ⅷ	岩村町一本柳	○	○	○	F15年度調査 年報14
40	西一本柳遺跡Ⅷ	岩村町一本柳	○	○	○	F15年度調査 年報14
41	西一本柳遺跡Ⅷ	岩村町一本柳	○	○	○	F15年度調査 年報14
42	西一本柳遺跡Ⅷ	岩村町一本柳	○	○	○	F15年度調査 年報14
43	西一本柳遺跡Ⅷ	岩村町一本柳	○	○	○	F15年度調査 年報14
44	西一本柳遺跡Ⅷ	岩村町一本柳	○	○	○	F15年度調査 年報14
45	西一本柳遺跡Ⅷ	岩村町一本柳	○	○	○	F15年度調査 年報14
46	西一本柳遺跡Ⅷ	岩村町一本柳	○	○	○	F15年度調査 年報14
47	西一本柳遺跡Ⅷ	岩村町一本柳	○	○	○	F15年度調査 年報14
48	西一本柳遺跡Ⅷ	岩村町一本柳	○	○	○	F15年度調査 年報14
49	西一本柳遺跡Ⅷ	岩村町一本柳	○	○	○	F15年度調査 年報14
50	西一本柳遺跡Ⅷ	岩村町一本柳	○	○	○	F15年度調査 年報14
51	西一本柳遺跡Ⅷ	岩村町一本柳	○	○	○	F15年度調査 年報14
52	西一本柳遺跡Ⅷ	岩村町一本柳	○	○	○	F15年度調査 年報14
53	西一本柳遺跡Ⅷ	岩村町一本柳	○	○	○	F15年度調査 年報14
54	西一本柳遺跡Ⅷ	岩村町一本柳	○	○	○	F15年度調査 年報14
55	西一本柳遺跡Ⅷ	岩村町一本柳	○	○	○	F15年度調査 年報14
56	西一本柳遺跡Ⅷ	岩村町一本柳	○	○	○	F15年度調査 年報14
57	西一本柳遺跡Ⅷ	岩村町一本柳	○	○	○	F15年度調査 年報14
58	西一本柳遺跡Ⅷ	岩村町一本柳	○	○	○	F15年度調査 年報14
59	西一本柳遺跡Ⅷ	岩村町一本柳	○	○	○	F15年度調査 年報14
60	西一本柳遺跡Ⅷ	岩村町一本柳	○	○	○	F15年度調査 年報14
61	西一本柳遺跡Ⅷ	岩村町一本柳	○	○	○	F15年度調査 年報14
62	西一本柳遺跡Ⅷ	岩村町一本柳	○	○	○	F15年度調査 年報14
63	西一本柳遺跡Ⅷ	岩村町一本柳	○	○	○	F15年度調査 年報14
64	西一本柳遺跡Ⅷ	岩村町一本柳	○	○	○	F15年度調査 年報14
65	西一本柳遺跡Ⅷ	岩村町一本柳	○	○	○	F15年度調査 年報14
66	西一本柳遺跡Ⅷ	岩村町一本柳	○	○	○	F15年度調査 年報14
67	西一本柳遺跡Ⅷ	岩村町一本柳	○	○	○	F15年度調査 年報14
68	西一本柳遺跡Ⅷ	岩村町一本柳	○	○	○	F15年度調査 年報14
69	西一本柳遺跡Ⅷ	岩村町一本柳	○	○	○	F15年度調査 年報14
70	西一本柳遺跡Ⅷ	岩村町一本柳	○	○	○	F15年度調査 年報14
71	西一本柳遺跡Ⅷ	岩村町一本柳	○	○	○	F15年度調査 年報14
72	西一本柳遺跡Ⅷ	岩村町一本柳	○	○	○	F15年度調査 年報14
73	西一本柳遺跡Ⅷ	岩村町一本柳	○	○	○	F15年度調査 年報14
74	西一本柳遺跡Ⅷ	岩村町一本柳	○	○	○	F15年度調査 年報14
75	西一本柳遺跡Ⅷ	岩村町一本柳	○	○	○	F15年度調査 年報14
76	西一本柳遺跡Ⅷ	岩村町一本柳	○	○	○	F15年度調査 年報14
77	西一本柳遺跡Ⅷ	岩村町一本柳	○	○	○	F15年度調査 年報14
78	西一本柳遺跡Ⅷ	岩村町一本柳	○	○	○	F15年度調査 年報14
79	西一本柳遺跡Ⅷ	岩村町一本柳	○	○	○	F15年度調査 年報14
80	西一本柳遺跡Ⅷ	岩村町一本柳	○	○	○	F15年度調査 年報14
81	西一本柳遺跡Ⅷ	岩村町一本柳	○	○	○	F15年度調査 年報14
82	西一本柳遺跡Ⅷ	岩村町一本柳	○	○	○	F15年度調査 年報14
83	西一本柳遺跡Ⅷ	岩村町一本柳	○	○	○	F15年度調査 年報14
84	西一本柳遺跡Ⅷ	岩村町一本柳	○	○	○	F15年度調査 年報14
85	西一本柳遺跡Ⅷ	岩村町一本柳	○	○	○	F15年度調査 年報14
86	西一本柳遺跡Ⅷ	岩村町一本柳	○	○	○	F15年度調査 年報14
87	西一本柳遺跡Ⅷ	岩村町一本柳	○	○	○	F15年度調査 年報14
88	西一本柳遺跡Ⅷ	岩村町一本柳	○	○	○	F15年度調査 年報14
89	西一本柳遺跡Ⅷ	岩村町一本柳	○	○	○	F15年度調査 年報14
90	西一本柳遺跡Ⅷ	岩村町一本柳	○	○	○	F15年度調査 年報14
91	西一本柳遺跡Ⅷ	岩村町一本柳	○	○	○	F15年度調査 年報14
92	西一本柳遺跡Ⅷ	岩村町一本柳	○	○	○	F15年度調査 年報14
93	西一本柳遺跡Ⅷ	岩村町一本柳	○	○	○	F15年度調査 年報14
94	西一本柳遺跡Ⅷ	岩村町一本柳	○	○	○	F15年度調査 年報14
95	西一本柳遺跡Ⅷ	岩村町一本柳	○	○	○	F15年度調査 年報14
96	西一本柳遺跡Ⅷ	岩村町一本柳	○	○	○	F15年度調査 年報14
97	西一本柳遺跡Ⅷ	岩村町一本柳	○	○	○	F15年度調査 年報14
98	西一本柳遺跡Ⅷ	岩村町一本柳	○	○	○	F15年度調査 年報14
99	西一本柳遺跡Ⅷ	岩村町一本柳	○	○	○	F15年度調査 年報14
100	西一本柳遺跡Ⅷ	岩村町一本柳	○	○	○	F15年度調査 年報14

周辺遺跡表



周辺遺跡位置図(1:12,000)

第3節 発見された遺構と遺物

- 遺構 竪穴住居址-8軒(奈良・平安時代) 溝状遺構-2条(中世以降)
 土坑-3基(奈良・平安時代他) 掘立柱建物址-1棟(奈良・平安時代) ビット-3個
- 遺物 土師器(坏・瓮・甕) 須恵器(坏・蓋・甕・壺) 石器・石製品(砥石・すり石)
 鉄製品(刀子)

第4節 基本層序

遺跡は、浅間の麓から放射状に延びる浸食谷に挟まれた『田切り』地形の細長い台地末端近くに立地する。この付近は、現在の浅間山が形成される過程で噴出した軽石流が基盤となっており、この上面を現在の表土が覆っている。今回調査を実施した地域の基本層序は以下のとおりである。

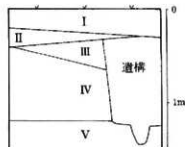
I層は層厚20~30cmを測る黒褐色土の耕作土上層で、しまり・粘性が少ない。

II層は層厚5~20cmを測る暗褐色土層の耕作土下層で、しまり・粘性が少ない。調査区東側で認められる。

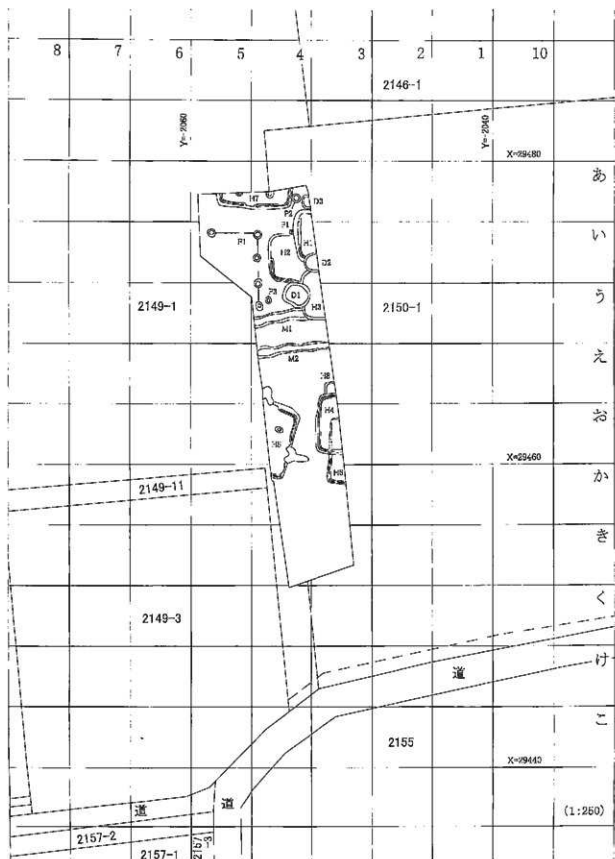
III層は層厚5~30cmを測る黒褐色土層で、調査区南側を中心に認められる。遺構は本土層から掘り込まれているが不鮮明である。

IV層は浅間山の噴出物である第一軽石流の黄褐色ロームである。遺構確認は、III層上面から掘り込まれているが、不鮮明なため明確に確認できるIV層上面で行った。

V層 黄褐色ロームの下層ロームで白色ローム等が混入する。



基本層序模式図



西八口E遺跡VI (INC-VIIH26) 遺構配置図 (1:250)

第三章 遺構と遺物

第1節 竪穴住居址 (H)

H1号住居址

遺構は4-いグリッドに位置し、H2を切り、調査後の調査区土層断面からD2に切られていることが確認できた。東側の大半は調査区域外となる。主軸はN5°Wである。

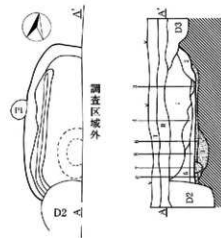
平面形態は確認状況からやや隅の丸い方形又は長方形と考えられる。

調査規模は南北3.0m、東西1.4m、検出面から床面までの深さは最深で65cmを測る。

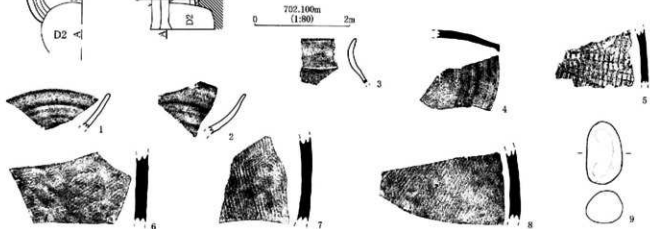
覆土は暗褐色土と黒褐色土主体で、周辺部から堆積した状況が認められることから自然堆積と考えられる。

構造上の特徴として、床面は硬質の貼床が存在し、壁際には西壁から幅20cm、深さ10cm内外の壁溝が確認できた。主柱穴等のピット及びピカマドは確認できなかった。掘方は厚さ5~8cmの硬質な貼り床1層である。床面の南寄りに楕円形の深さ20cmを測る窪みが存在した。

遺物は土師器の坏・甕片、須恵器の坏・蓋・甕片、すり石が出土した。遺物はすべて破片で、出土量は少なく土師器



- 1 暗褐色土層 (10YR3/4) ローム多く、炭化物・軽石含む。
- 2 黒褐色土層 (10YR3/2) ローム多く、炭化物・軽石含む。
- 3 黒色土層 (10YR2/1) ローム・炭化物多く、軽石含む。しまりあり。
- 4 暗褐色土層 (10YR3/3) ローム多く、炭化物・軽石含む。
- 5 黒褐色土層 (10YR2/3) ローム多く、炭化物・軽石含む。
- 6 におい黄褐色土層 (10YR4/3) ロームと暗褐色土の混合土。硬質。
- 7 黒褐色土層 (10YR2/3) ロームブロック含む。
- 8 黒褐色土層 (10YR3/2) ローム・ロームブロック・炭化物含む。ややしまりあり。
- 9 褐色土層 (10YR4/6) ローム多く、砂・暗褐色土・軽石含む。



H1号住居址遺構・遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調査・文様	残存率・部位	備考
1	土師器	坏	-	-	-	内外面ロクロナデ	口縁破片	外面2.5YR6/4 におい褐色 破片実測
2	土師器	坏	-	-	-	外面ロクロナデ 内面黒色帯埋	口縁破片	外面10YR2/3 黒褐色 破片実測
3	土師器	甕	-	-	-	口縁内外面 縦ナデ 外面ヘラケズリ 内面ヘラナデ	口縁~胴部破片	外面10YR2/2 黒褐色 破片実測
4	須恵器	蓋	-	-	-	ロクロナデ 天井部ヘラケズリ 自然埋付着	裏り部~片部破片	上面10YR5/1 褐色 破片実測
5	須恵器	甕	-	-	-	外面磨子状明き痕 内面当て具痕	胴部破片	外面2.5Y6/2 灰黄色 破片実測
6	須恵器	甕	-	-	-	外面明き痕ナデ 内面無文当て具痕・ナデ	胴部破片	外面5Y3/1 緑黄色 破片実測
7	須恵器	甕	-	-	-	外面平行明き 内面無文当て具痕・ナデ・自然埋付着	胴部破片	外面5Y4/1 灰色 破片実測
8	須恵器	甕	-	-	-	外面明き痕後ナデ・自然埋付着 内面無文当て具痕・ナデ	胴部破片	外面10YR1.7/1 黒色 破片実測
番号	器種	器形	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	調査・文様	重量(g)	備考
9	石器	すり石	6.69	3.75	3.37	表面なめらか すり痕あり?	129.36	

H1号住居址遺物観察表

567g、須恵器890gを測る。

時期は、口縁コの字状の土師器武蔵甕の存在から9世紀、平安時代としたい。

H2号住居址

遺構は4-いグリッドに位置し、東側はH1・H3・D2に、南壁の一部をD1に切られる。主軸はN3°Wである。

平面形態は確認状況からやや隅の丸い方形と考えられる。

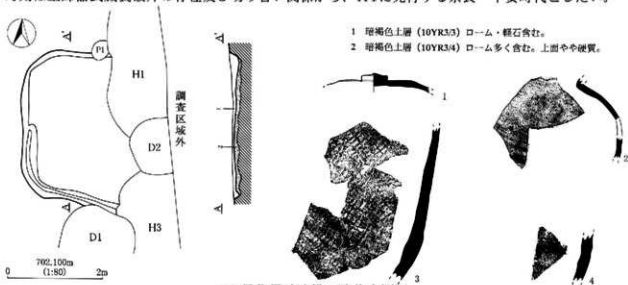
調査規模は南北3.1m、東西2.2m、検出面から床面までの深さは最深で10cmを測る。

覆土は暗褐色土の単層で、土層の厚みが浅いことから自然堆積又は人為的かの判断は不明である。

構造上の特徴として、床面は硬質の貼床が存在し、壁際には西壁の南半分から南壁にかけて幅15~20cm、深さ8cm内外の壁溝が確認できた。主柱穴等のビット及びカマドは確認できなかった。掘方は中央付近が4cm厚と薄く、壁に向かって徐々に厚みを増し、壁付近で8cmと厚みを増す硬質な貼り床直下に5~10cm厚の暗褐色土が埋め込まれていた。

遺物は土師器の坏・甕、須恵器の坏・蓋・甕・壺が出土した。いずれも破片で、出土量は土師器214g、須恵器559gを測る。

時期は土師器武蔵甕破片の存在及び切り合い関係から、H1に先行する奈良・平安時代としたい。



H2号住居址遺構・遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	高さcm	調査・文様	残存率・部位	備考
1	須山器	壺	つまみ縁 2.7	-	(2.0)	ロクロナデ 天井部印痕ヘラケズリ 宝輪つまみ縁り付け	つまみ〜天井部破片	外面10YR5/1 黄褐色 完全欠損 外面5Y5/1 灰色
2	須山器	壺	-	-	(9.2)	ロクロナデ 外面自然焼付帯	頸部〜胴部破片	外面2.5Y7/2 灰黄褐色 縁に欠損
3	須山器	甕	-	-	-	外面種子印迹 内面ナデ	胴部破片	外面7.5YR5/3 灰オリーブ色 縁に欠損
4	須山器	壺?	-	-	-	外面種子印迹 内面ナデ	胴部破片	

H2号住居址遺物観察表

H3号住居址

遺構は3-うグリッドに位置し、D1・D2・M1に切られ、H2を切る。主軸はN5°Wである。

平面形態はやや隅の丸い方形又は長方形と考えられる。

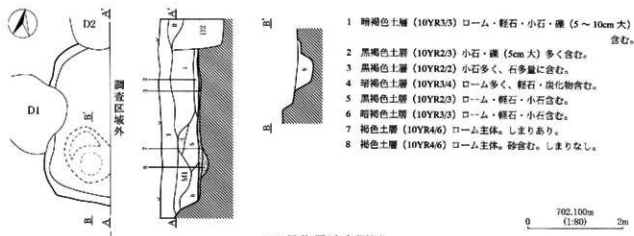
調査規模は南北3.0m、東西1.2m、検出面から床面までの深さは50cmを測る。

覆土は暗褐色土と黒褐色土主体で、壁際から流れ込んだ状況が認められることから自然堆積と考えられる。

構造上の特徴として、床面は硬質で、壁際の壁溝は存在しなかった。主柱穴等のビット及びカマドは確認できなかった。掘方は4~6cm厚の硬質な貼り床のみであった。掘方調査時に南西コーナー付近から土坑状の掘り込みが確認できた。

遺物は土師器甕、須恵器坏片併せて小破片が4片出土した。

時期は切り合い関係及び土師器武蔵甕破片の存在から奈良・平安時代としたい。



H3号住居址実測図

H4号住居址

遺構は3-オグリッドに位置し、H6・H8を切る。東側の大半は調査区域外となる。主軸はN8°Eである。

平面形態は、やや隅の丸い方形又は長方形と考えられる。

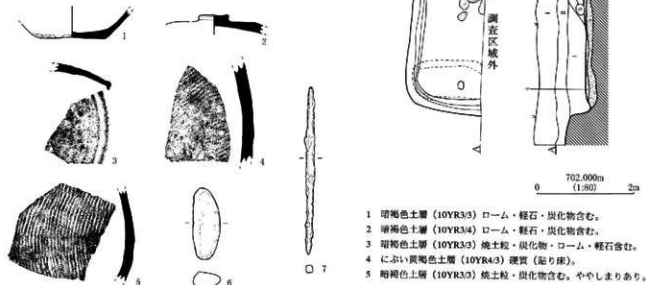
調査規模は南北3.8m、東西1.4m、検出面から床面までの深さは40cmを測る。

覆土は北方向から流れ込むように堆積した状況であることから、自然堆積と考えられた。

構造上の特徴として、床面は全体的に硬質で、中央付近に熱を受けたと思われる石が散在していた。壁際には幅15~20cm、深さ10cm内外の壁溝が巡る。主柱穴等のピット及びびカマドは確認できなかったが、床面直上に散在する熱を受けた石の存在から、東側調査区域外にカマドが存在する可能性が考えられた。掘方は5cm厚の硬質な貼り床直下に暗褐色土が10cm内外埋め込まれ、南側の壁際のみ20cm内外と深く掘り込まれていた。

遺物は土師器の環・甕、須恵器の環・蓋・甕、鉄鏝、すり石が出土した。須恵器環1点、鉄鏝が比較的形状を残す他は小破片である。出土量は土師器342g、須恵器510gを測る。

時期は底部ヘラケズリされた須恵器環及び土師器武蔵甕片の存在から8世紀、奈良時代としたい。



H4号住居址遺構・遺物実測図

発号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調査・文様	発出層・部位	備考
1	須恵器	坏	—	6.4	(2.9)	ロクロナギ 底部へ瓦線引定輪ヘラケズリ	底部から底縁	外壁L15V0/7 灰黄色 完全焼
2	須恵器	蓋	—	つばみ径 5.15	(1.8)	ロクロナギ 灰井部ヘラケズリ つまみ縁も付け	つまみ縁部破片	外壁L15V2/1 硝灰黄色 一層瓦線引
3	須恵器	蓋	—	—	—	ロクロナギ 表面自然酸化皮 表面焼痕 焼成やや不良	灰井部へ灰井部破片	外壁L15V2/1 黄灰色 瓦線引
4	須恵器	蓋	—	—	—	外壁叩き版 内蓋ナギ	頂部破片	外壁L15V2/2 硝灰黄色 破片残部
5	須恵器	蓋	—	—	—	外壁焼印付版 穴裏ヘラナギ	頂部破片	外壁L15V3/1 黒褐色 焼印残部
番号	器種	器形	最大径cm	最大物cm	最大厚cm	調査・文様	重量(g)	備考
6	石器	すり石	7.77	2.92	1.51	敷面にすり版	48.23	
7	鉄器	環	1.785	1.74	1.84	全体に錆付層	28.52	

II 4号住居址遺物観察表

II 5号住居址

遺構は4-おグリッドに位置し、西側の多くは調査区域外となる。主軸はN16° 3である。

平面形態は、やや隅の丸い方形又は長方形と考えられる。

調査規模は南北4.4m、東西2.3m、検出面から床面までの深さは80cmを測る。

覆土は周辺部から流れ込んだ状態が認められることから自然堆積と考えられる。

構造上の特徴として、床面はほぼ平坦で硬質の土間状である。壁際には幅15~20cm、深さ15cm内外

の溝が流る。主柱穴は、1個認められたが深さは20cmと浅い。カマドは北壁と東壁や南寄りの2カ

所に存在した。東カマドは、火床部が壁外へ方形状に張り出し、焼道部は張り出し部先端の中央から

約20度の傾斜で80cm先に立ち上がる。北カマドの西側一部は調査区域外となり、床面より若干深く嵌

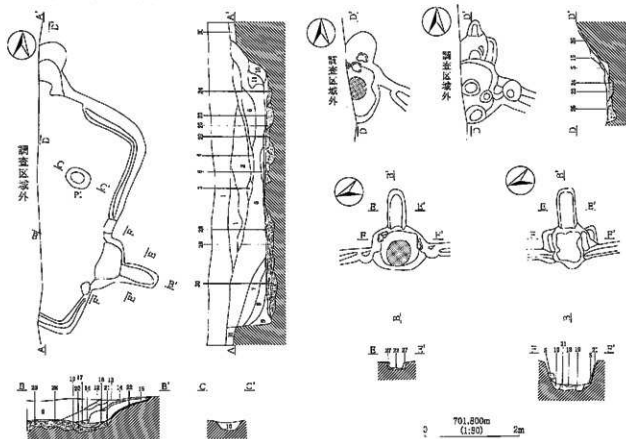
められた火床部及び火床から約30度の傾斜で北壁外に立ち上がる煙道部が残存していた。東軸は破壊

され確認できなかった。いずれのカマドも周辺部に構築材として使用されたと考えられる粘土が多量

に散在していた。掘方は中央部が浅く周辺部を深く掘り下げた状態であった。

遺物は土師器の坏・蓋、須恵器の坏・蓋・甕、砥石が出土した。土師器坏及び甕にやや形状の残る

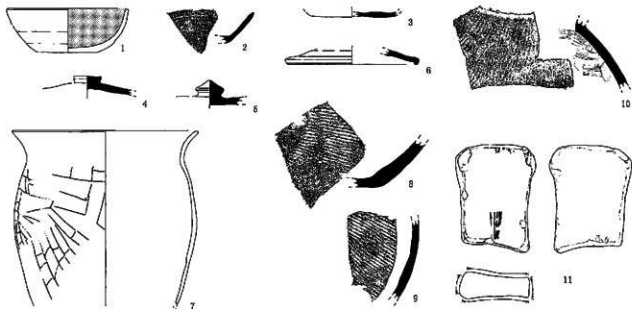
個体が存在する他は小破片である。出土量は土師器2,330g、須恵器705gを測る。



II 5号住居址実測図

- 1 暗褐色土層 (10YR3/3) ローム・軽石・炭化物含む。
- 2 暗褐色土層 (10YR3/4) ローム・軽石やや多く、炭化物含む。
- 3 黒色土層 (7.5YR1.7/1) 炭化層。
- 4 強暗褐色土層 (7.5YR2/3) 粘土粒・炭化物やや多く含む。
- 5 黒褐色土層 (10YR3/2) ローム・軽石・炭化物含む。
- 6 黒褐色土層 (10YR2/3) ローム・軽石・炭化物含む。
- 7 暗褐色土層 (10YR3/5) ロームやや多く、軽石・炭化物含む。
- 8 黒褐色土層 (7.5YR2/2) 粘土主体。炭化物・焼土粒含む。
- 9 暗褐色土層 (10YR3/3) ロームやや多く、軽石・炭化物・粘土含む。
- 10 強暗褐色土層 (7.5YR2/3) 粘土粒・ローム・軽石含む。
- 11 黒色土層 (7.5YR2/1) 粘土層。
- 12 褐色土層 (10YR4/4) やや砂質。しまりあり。
- 13 暗褐色土層 (10YR3/4) ローム・小石・粘土粒・ロームブロック含む。
- 14 暗褐色土層 (7.5YR3/4) 粘土粒・焼土粒・炭化物含む。
- 15 黒褐色土層 (5YR2/1) 粘土層。焼土・炭化物含む。
- 16 黒褐色土層 (7.5YR3/1) 粘土層。
- 17 明赤褐色土層 (5YR5/8) 焼土層。
- 18 褐色土層 (7.5YR4/4) 粘土層。
- 19 暗褐色土層 (7.5YR3/4) 焼土・炭化物含む。
- 20 褐色土層 (7.5YR4/4) 焼土・砂・炭化物・粘土含む。
- 21 強暗褐色土層 (7.5YR2/3) 粘土主体。焼土・炭化物含む。
- 22 におい黄褐色土層 (10YR4/3) 粘土含み、焼土少量含む。
- 23 黒褐色土層 (10YR3/1) 粘土多く、炭化物・焼土含む。
- 24 黄褐色土層 (5YR4/8) 焼土層。
- 25 強暗褐色土層 (7.5YR2/3) 粘土多く、焼土・炭化物含む。
- 26 褐色土層 (7.5YR4/3) 炭化物・焼土少量含む。
- 27 灰黄褐色土層 (10YR4/2) 粘土主体。
- 28 暗褐色土層 (10YR3/4) ロームと暗褐色土の複合土。硬質(粘り床)。
- 29 暗褐色土層 (10YR3/3) ローム多く含む。ややしまりあり(固方)。
- 30 黒褐色土層 (10YR3/2) ローム多く、軽石・炭化物含む。

時期は土師器武藏窯の口縁がコの字状になりかけであり、須恵器坏底部の周辺部にヘラケズリを施すことから8世紀後半、奈良・平安時代としたい。



H5号住居址遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調査・文書	残存部・部位	備考
1	土師器	杯	(12.8)	6.2	4.6	外周ロクロナデ 内面黒色焼痕 底面ヘラケズリ	80	外周10YR5/3 に近い黄褐色一部黒化焼痕
2	須恵器	杯	--	--	--	内外黒ロクロナデ	口縁一帯破砕片	外周5Y6/1 灰色一部黒化
3	須恵器	杯	--	(8.7)	--	底縁面縁糸切り 底外縁部ヘラケズリ	底縁破片	外周5Y6/1 灰色一部黒化
4	須恵器	盃	--	つまみ径 3.0	--	ロクロナデ 天舟部ヘラケズリ つまみ貼り付け	つまみ周辺破片	外周10GY4/1 暗緑灰色一部黒化
5	須恵器	盃	--	つまみ径 3.0	--	ロクロナデ 天舟部ヘラケズリ 玉珠つまみ貼り付け	つまみ周辺破片	外周10YR5/1 黒灰色一部黒化
6	須恵器	盃	--	--	--	ロクロナデ	裏り周辺破片	外周7.5Y4/1 灰色一部黒化
7	土師器	碗	(10.6)	--	(18.8)	口縁狭ナデ 外周ヘラケズリ 内面ヘラケナデ	口縁から底縁破片	外周5Y6/4 赤褐色黒化焼痕
8	須恵器	碗	--	--	--	外周網目叩き痕 底縁部ヘラケズリ	底部一割破片	外周10YR5/2 灰黄褐色黒化焼痕
9	須恵器	碗	--	--	--	外周網目叩き痕 内面出て具痕	底部破片	外周10YR5/2 灰黄褐色黒化焼痕
10	須恵器	碗	--	--	--	外周自然粘り付 内面割毛目状ナデ	底縁破片	外周5Y6/1 灰色黒化焼痕
番号	器種	器形	最大径(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	調査・文書	重量(g)	備考
11	石製品	礫石	11.2	8.6	8.6	断面4 1面に糸痕	415.9	

H5号住居址遺物観察表

H6号住居址

遺構は3-おグリッドに位置し、H4に切られる。主軸はN9°Eである。

平面形態は方形又は長方形と考えられる。

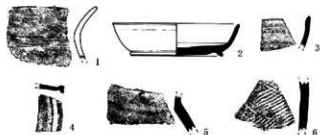
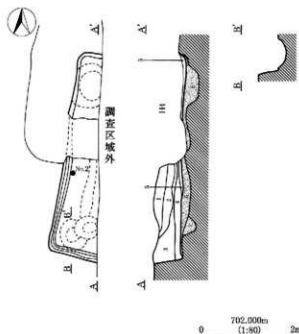
調査規模は南北4.2m、東西1.0m、検出面から床面までの深さは60cmを測る。

覆土は暗褐色土が主体で、周辺部からの自然堆積と考えられる。

構造上の特徴として、床面は硬質の土間状で、ピットは確認できなかった。壁際に幅12cm、深さ5cm内外の壁溝が巡る。カマドは確認できなかった。掘方は5cm厚の貼床直下に10~20cmの厚みで暗褐色土が埋め込まれていた。

遺物は土師器の甕、須恵器の坏・高台付坏・蓋・甕が出土したが、須恵器の高台付坏1点の他は小破片である。出土量は土師器154g、須恵器320gを測る。

時期は底部回転糸切り後高台張り付けの高台付坏の形状及び口縁くの字状の土師器式藏甕片の存在、またH4に切られることから、H4より僅かに先行する8世紀、奈良時代としたい。



- 1 濃い黄褐色土層 (10YR4/3) ローム多く、軽石・炭化物含む。
- 2 暗褐色土層 (10YR3/3) ローム・軽石・炭化物含む。
- 3 暗褐色土層 (10YR3/4) ローム・軽石・炭化物含む。
- 4 暗褐色土層 (10YR3/3) 炭化物・焼土・ローム・軽石含む。
- 5 暗褐色土層 (7.5YR2/3) 炭化物多く、焼土・ローム・軽石含む。
- 6 暗褐色土層 (10YR3/4) ロームと暗褐色土の混合土。
- 7 褐色土層 (10YR4/4) ローム・砂多く含む。しまりなし。

H6号住居址遺構・遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調査・文様	残存部・部位	備考
1	土師器	甕	-	-	-	口縁部ナゲ 胴部外面ヘラケズリ	口縁破片	外周5YR5/2 灰褐色 破片光澤
2	須恵器	高台付坏	13.2	9.6	3.4	口ノコナデ 胴部回転ヘラケズリ後高台張り付け	85	外周5Y3/1 灰色 完全光澤
3	須恵器	坏	-	-	-	内外面口コナデ	口縁破片	外周10YR7/1 灰白色 破片光澤
4	須恵器	蓋	-	-	-	自然軸付着	蓋内部破片	外周10YR4/1 黄灰色 破片光澤
5	須恵器	甕	-	-	-	外面自然軸付着	胴部破片	外周5Y7/1 黄オリブ灰色 破片光澤
6	須恵器	甕	-	-	-	外面顕目叩き痕	胴部破片	外周2.5Y5/2 暗灰黄色 破片光澤

H6号住居址遺物観察表

H7号住居址

遺構は4-あグリッドに位置し、北側の大半は調査区域外となる。主軸はN1°Eである。

平面形態は方形又は長方形と考えられる。

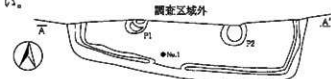
調査規模は南北1.1m、東西4.8m、検出面から床面までの深さは55cmを測る。

覆土は暗褐色土及び黒褐色土が主体でレンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

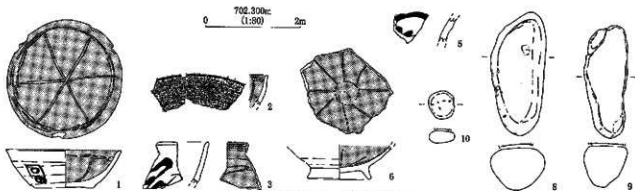
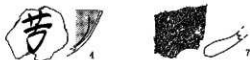
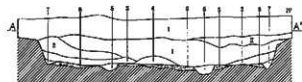
床面はやや硬質の土間状で、ピットは2個確認できた。掘り込み深度は浅いが位置的に主柱穴と考えられる。壁際には幅10~15cm、深さ10cm内外の壁溝が巡る。カマドは確認できなかった。掘方は床面直下に3~12cmの厚みで褐色土が埋め込まれていた。

遺物は土師器の坏・柄・甕・甗、須恵器の坏・甕、すり石が出土した。土師器坏1点が良好な残存状況であったが、他の遺物は小破片である。出土量は土師器1,517g、須恵器424gを測る。墨書土器が多く認められた。

時期は、口縁コの字状気味の土師器武藏壺、土師器碗の存在などから9世紀前半、平安時代とした。



- 1 暗褐色土層 (7.5YR3/5) ローム・軽石・炭化物含む。
- 2 黒褐色土層 (7.5YR2/2) ローム・軽石・炭化物含む。
- 3 黒褐色土層 (10YR2/3) ローム・軽石・炭化物含む。
- 4 黒褐色土層 (7.5YR3/6) ローム・炭化物・砂・軽石含む。
- 5 暗褐色土層 (7.5YR3/4) ローム・軽石等多く含む。
- 6 褐色土層 (10YR4/4) ローム主体。暗褐色土含む。
- 7 褐色土層 (10YR4/6) ローム主体。暗褐色土含む。しまりなし。



H7号住居址遺構・遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	特徴・文様	残存部・部位	備考
1	土師器	杯	12.1	6.1	4.1	ロクロナデ 内面黒色地 放射状文 底面凹縁あり 裏面蓋付	99	外層7.5YR3/4 に近い褐色土に埋め
2	土師器	杯	-	-	-	ロクロナデ 内面黒色地	口縁破片	外層7.5YR3/6 褐色
3	土師器	杯	-	-	-	ロクロナデ 内面黒色地 底面凹縁	口縁破片	外層7.5YR3/6 褐色
4	土師器	杯	-	-	-	ロクロナデ 内面黒色地 底面凹縁	片破片	外層7.5YR3/6 黒褐色
5	土師器	杯	-	-	-	ロクロナデ 底面凹縁	片破片	外層7.5YR3/4 に近い褐色土に埋め
6	土師器	碗	-	8.7	(3.4)	ロクロナデ 内面黒色地 放射状文 底面凹縁あり 底面蓋付	高台部から杯部下半	外層7.5YR3/4 に近い赤褐色土に埋め
7	土師器	瓶	-	-	-	外層ヘラケズリ 内面ヘラナデ 底面ヘラケズリ 穿孔	底面破片	外層10YR2/3 褐色土に埋め
番号	器種	器形	最大径(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	特徴・文様	重量(g)	備考
8	石碇	すり石	12.4	5.75	4.42	縦面2 側面に打痕	487.41	
9	石碇	すり石	11.72	4.45	4.32	縦面2	252.1	
10	石碇	すり石	3	2.65	1.28	すり痕	6.02	縦断面

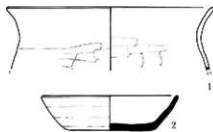
H7号住居址遺物観察表

H8号住居址

遺構は3-エグリッドに位置し、H4に切られ、東側は調査区域外となる。主軸はN7°Wである。平面形態は方形又は長方形と考えられる。調査規模は南北72cm、東西70cmと備かで、検出面から床面までの深さは33cmを測る。覆土はローム・軽石混じりの暗褐色土及び黒褐色土である。構造上の特徴として、床面はやや硬さを持つ。カマドは確認できなかった。掘方は床面直下が地山のローム土となり明確な掘り込みは認められなかった。遺物は土師器杯・壺、須恵器杯が出土した。須恵器杯1点の残存状況が良好な他は小破片で出土量も少ない。出土量は土師器80g、須恵器192gを測る。時期は武蔵壺破片の存在及びH4に切られることから、H4に若干先行する8世紀、奈良時代とした。



- 1 暗褐色土層 (10YR3/3)
ローム・軽石・炭化物含む。
- 2 黒褐色土層 (10YR2/3)
炭化物多く、ローム・軽石含む。



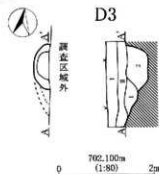
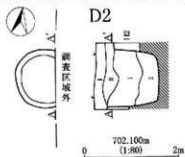
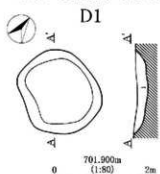
H8号住居址遺構・遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調査・文様	残存率・部位	備考
1	土師器	甕	21.8	-	6.5	口縁横ナデ 外面ヘラケズリ 内面ヘラナデ	口縁→胴部破片	外面2.5YR5/6 明赤褐色土層 内面土5YR6/1 黄褐色完全土層
2	須恵器	杯	14.3	9.1	3.7	口ロコナデ 底部ヘラケズリ	90	外面土5YR6/1 黄褐色完全土層

H8号住居址遺物観察表

第2節 土坑 (D)

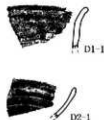
ピットと区別するため、直径50cm以上の掘り込みを土坑として取り扱った。



- 1 暗褐色土層 (10YR3/3) ロームやや多く、軽石・炭化物含む。

- 1 暗褐色土層 (10YR3/4) ローム・軽石・砂・小石含む。しまりなし。
- 2 暗褐色土層 (10YR3/3) ローム・軽石・砂・小石含む。しまりなし。

- 1 暗褐色土層 (10YR3/4) ローム多く、炭化物・軽石含む。
- 2 黒褐色土層 (10YR2/2) ローム・砂・軽石含む。



D1・2・3号土坑実測図、D1・2号土坑遺物実測図

遺構名	形態	直径(cm)	掘深(cm)	開口(cm)	位置	備考
D1	溝丸方形	180	150	34	4-う	H2-3を切る D1に穿られる
D2	[円形]	120	(85)	55	3-い	尖側調査区外 H1-2-3を切る
D3	[円形] ?	(95)	(32)	45	4-あ	尖側調査区外

土坑観察表

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調査・文様	残存率・部位	備考
D1-1	土師器	甕	-	-	-	口縁横ナデ	口縁破片	外面10YR3/1 灰褐色土層 破片実測
D2-1	土師器	杯	-	-	-	口ロコナデ 内面黒色感理	口縁破片	外面10YR7/4 に近い黄褐色土層 破片実測
D2-2	土師器	甕	-	-	-	外面横ナデ ヘラケズリ 内面刷毛目状ナデ	胴部破片	外面5YR6/4 に近い褐色土層 破片実測
D2-3	須恵器	杯	-	-	-	口ロコナデ	口縁破片	外面2.5Y6/1 黄褐色土層 破片実測
D2-4	須恵器	甕	-	-	-	口ロコナデ	胴部破片	外面2.5Y7/1 黄白色土層 破片実測
D2-5	須恵器	甕	-	-	-	外面刷毛目 内外面自然釉付着	胴部破片	外面4-0 褐色土層 破片実測

土坑出土遺物観察表

第3節 溝状遺構 (M)

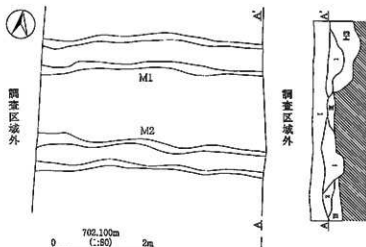
M1号溝状遺構

遺構は4-ラグリッドに位置し、H3・D1を切る。

調査規模は確認面上での幅70cm～76cm、底幅30cm～50cm、長さは4.8mを測る。

遺物は土師器の坏・甕、須恵器坏・釜・壺、陶器が出土した。すべて破片で出土量も少ない。

時期はH3を切ることから、奈良・平安時代より新しく、また、遺物中に陶器片が含まれることから中世以降である可能性が考えられる。



- 1 黒褐色土層 (10YR2/2) ローム・礫石・炭化物含む。
- 2 黒褐色土層 (10YR2/2) ローム・ロームブロック・炭化物含む。

M2号溝状遺構

遺構は4-ラ～エグリッドに位置する。

調査規模は確認面上での幅45cm～80cm、底幅25cm～50cm、長さ4.8mを測る。

遺物は出土しなかった。

時期は資料不足のため断定できないが、M1と平行して存在し、形状が類似することから、ほぼ同時期中の中世以降と考えられる。



M1・2号溝状遺構実測図、M1号遺物実測図

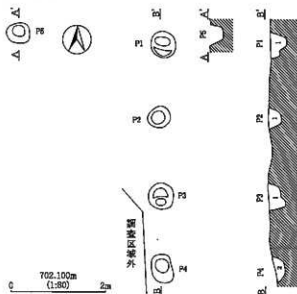
番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調査・文様	検出単部位	備考
1	須恵器	坏	-	5.0	(2)	ロクロナガ 底部回転角切り	底部～胴部破片	外径10YR6/1 褐色色釉一部に転写

M1号溝状遺構遺物観察表

第4節 掘立柱建物址 (F)

遺構は4-い付近に位置し、南北3間、東西1間のピット5個が確認できた。ピット形状は円形で径50～58cm、深さは20cm～35cmを測る。覆土はP1～P3は黒褐色土、P4は暗褐色で、地山のロームに掘り込まれ、明確に確認できた。遺物はP2から土師器坏1片、P3から土師器坏・甕、須恵器甕が出土したが、すべて破片で、出土量も10片と少ない。

時期は土師器坏の特徴及び、葺手の土師器武蔵甕と思われる破片の存在から奈良・平安時代とした。



- 1 黒褐色土層 (10YR2/5) ローム・炭化物・礫石含む。
- 2 暗褐色土層 (10YR3/5) ローム・炭化物・礫石含む。

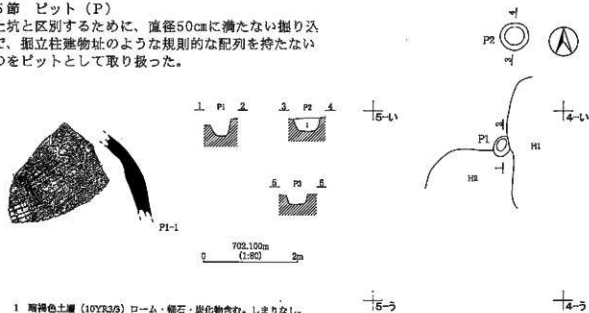
F1号掘立柱建物址実測図

遺構名	ピット番号	形状	長さ (cm)	幅 (cm)	深さ (cm)	位置	備 考
F1	P1	円形	62	62	35	4-11	
	P2	円形	48	44	26	4-11	
	P3	円形	64	60	36	4-11	
	P4	楕円形	50	40	20	4-11	
	P5	円形	48	40	28	5-11	

F1号掘立柱建物址ピット観察表

第5節 ピット (P)

土坑と区別するために、直径50cmに満たない掘り込みで、掘立柱建物址のような規則的な配列を持たないものをピットとして取り扱った。



1 暗褐色土層 (10YR3/6) ローム・礫石・炭化物含む。しまりなし。

ピット遺構・遺物実測図

遺構名	形状	長さ(cm)	幅(cm)	深さ(cm)	位置	備 考
P1	楕円形	44	38	35	4-11	141.2を切る
P2	円形	50	55	28	3-11	
P3	楕円形	48	34	20	4-11	

ピット観察表

番号	品 種	材 質	口径cm	底径cm	貯高cm	製 法・文 相	残存率・部位	備 考
P1-1	須恵器	瓦	--	--	--	外面指子耳付 内面滑て肌	四分破片	6Y7/2黄白色 黒片黄緑

ピット遺物観察表



岩村田遺跡群 西八日町遺跡Ⅶ (INCⅦH26) 調査区全景 (南から)



岩村田遺跡群 西八日町遺跡Ⅶ (INCⅦH26) 調査区全景 (北から)



調査風景（北から）



調査風景（南から）



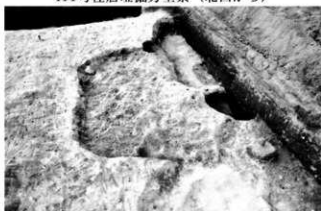
H1号住居址全景（北西から）



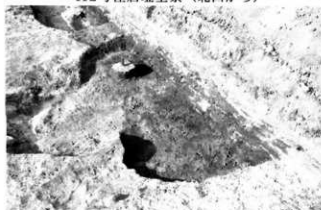
H1号住居址掘方全景（北西から）



H2号住居址全景（北西から）



H2号住居址掘方全景（南から）



H3号住居址全景（南西から）



H3号住居址掘方全景（西から）



H4号住居址全景（北西から）



H4号住居址全景2（北西から）



H4号住居址掘方全景（北西から）



H5号住居址全景（北から）



H5号住居址東カマド（西から）



H5号住居址東カマド掘方（西から）



H5号住居址北カマド（南東から）



H5号住居址北カマド掘方（南東から）



H5号住居址掘方全景（南から）



H6号住居址全景（北西から）



H6号住居址遺物出土状況



H6号住居址掘方全景（南西から）



H7号住居址全景（東から）



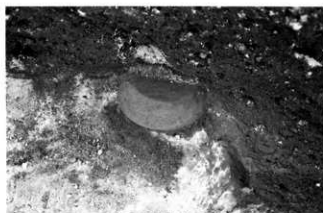
H7号住居址遺物出土状況



H7号住居址掘方全景（東から）



H8号住居址全景（北西から）



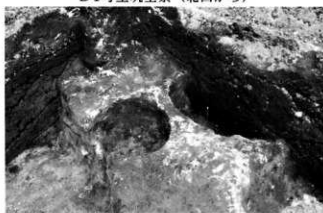
H8号住居址遺物出土状況



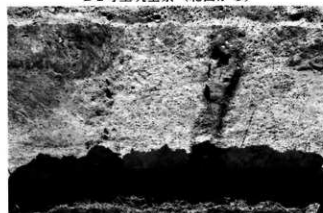
D1号土坑全景（北西から）



D2号土坑全景（北西から）



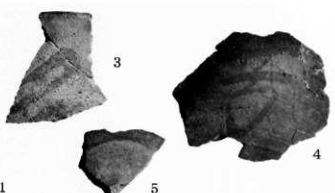
D3号土坑全景（南西から）



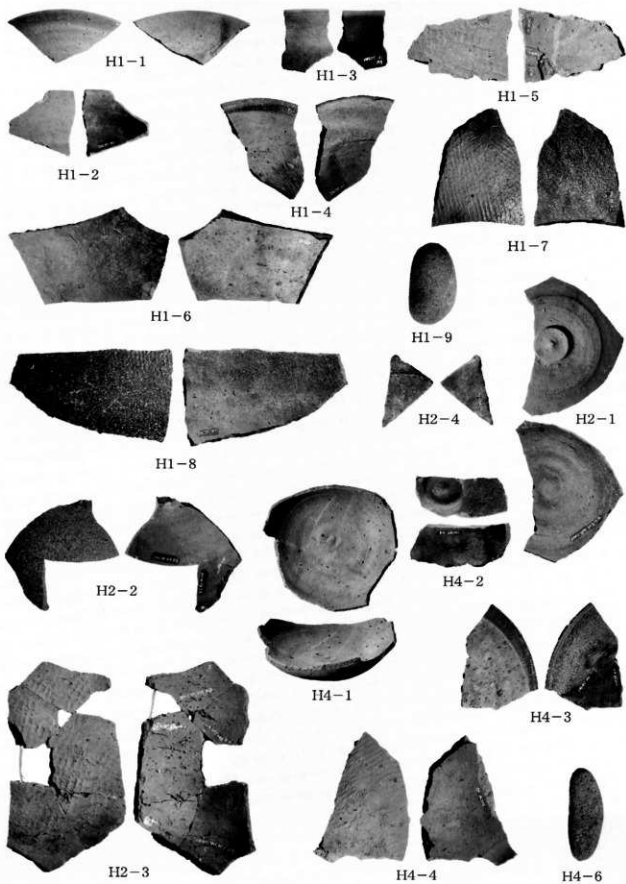
M1・2号溝状遺構全景（東から）



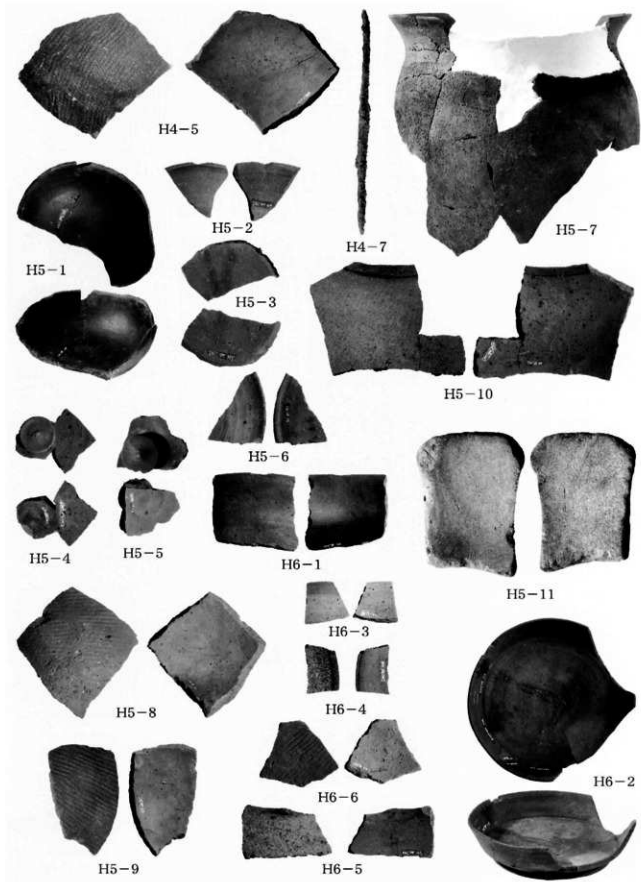
F1号掘立柱建物址全景（東から）



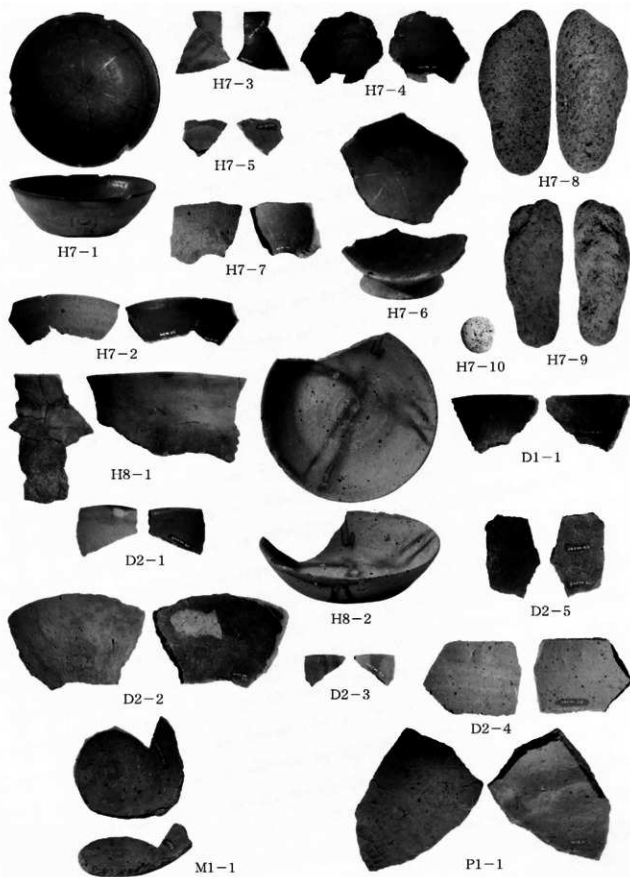
H7号住居址出土墨書土器拡大写真



H1·2·4号住居址遺物



II4·5·6号住居址遺物



H7・8号住居址、D1・2号土坑、M1号溝状遺構、P1号ピット出土遺物

報告書抄録

ふりがな	いわむらだいせきぐん にしようかまちいせきなな							
書名	岩村田遺跡群 西八日町遺跡Ⅶ							
副書名	-							
シリーズ名	佐久市埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第227集							
編著者名	上原 学							
編集機関	佐久市教育委員会文化財課							
所在地	長野県佐久市志賀 5953 TEL 0267-68-7321 FAX 0267-68-7323							
発行年月日	平成 26 年 (2014) 11 月							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コ ー ド 市町村 遺跡番号		北緯	東経	発掘期間	発掘面積㎡	発掘原因
いわむらだ いせきぐん にしようかまち いせきなな	さくしいわ むらだあぎ にしようか まち	20217	52	36° 15' 55"	138° 29' 37"	20140421 ～ 20140502	130	宅地造成
岩村田遺跡群 西八日町遺跡 Ⅶ	佐久市岩村 田字西八日 町2149-1、 2150-1							
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
岩村田遺跡群 西八日町遺跡 Ⅶ	集落	奈良・平安	竪穴住居址8軒、溝 状遺構2条、土坑3 基、掘立柱建物址1 棟、ピット3個	土器、石製品、鉄製品		奈良・平安時代（8～ 9世紀）の集落が発見 された。		
要約	佐久市岩村田市街地の南に位置する湯川との比高差約20mを測る台地端部付近に展開する遺跡である。本遺跡が所在する湯川右岸の台地縁辺付近は遺跡の密集地域として周知され、弥生時代から中世の遺跡が多数所在している。今回の地域からは、奈良・平安時代（8～9世紀）の住居址が8軒発見された。調査地域は130㎡と狭い範囲であったが、遺構の発見数から考えて周辺は遺構密度の濃い地域であることが確認された。また、周辺地域の調査状況（西八日町遺跡Ⅰ、西八日町遺跡Ⅱ～Ⅶ等）から、西八日町遺跡群内では、本遺跡の北方は古墳時代・奈良・平安時代の遺構が密集し、弥生時代の遺構は希薄だが、南方の台地端部に近づくにしたがい弥生時代の遺構密度が増す傾向が認められる。							

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第227集
岩村田遺跡群 西八日町遺跡Ⅶ (INCⅦH26)
平成 26 年 (2014) 11 月

編集・発行 佐久市教育委員会
〒385-8501 長野県佐久市中込 3056
文化財課
〒385-0006 長野県佐久市志賀 5953
Tel:0267-68-7321

印刷所 キクハラインク株式会社